

## 分類研究分科会（2006 年度活動報告）

代 表 者 : 藤倉 恵一 (文教大学)

会 員 数 : 5 機関 5 名 (2007 年 3 月 31 日現在)

会 員 : 正会員

伊藤 民雄 (実践女子大学)

鈴木 学 (日本女子大学)

高澤 玲子 (獨協大学)

藤倉 恵一 (文教大学)

堀 はな恵 (鶴見大学)

年 会 費 : 3,000 円

延べ出席者数 : 54 名 (内訳 : 月例会 10 回・夏期集中研究)

研究分科会ホームページ URL : <http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

### 1) 基本テーマ

件名、シソーラス、**Indexing** 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究という基本テーマとする。

今期は近年の分科会研究成果を基盤として、わが国における標準的な図書館分類法である日本十進分類法 (NDC) を理論的に拡張・性能向上が可能であるかどうか、またその影響はどのようなものであるかなどを検証したい。

### 2) 活動の概要

上の基本テーマは、前期 (2004-2005 年度会期) および前々期 (2002-2003 年度会期) の研究テーマを継承して設定したものである。

前々期は Bliss Bibliographic Classification 2nd ed. (以下「BC2」) の、前期は Dewey Decimal Classification (以下「DDC」) の諸版のそれぞれ教育分野を対象に、日本十進分類法 (以下「NDC」) との比較研究を行ってきた。BC2 は厳密なファセット分析のもとに複合主題を表現し、DDC は誕生時こそ NDC 同様の列挙型分類法でありながら近年の改訂でファセット分析の手法を採り入れつつある。いっぽう NDC の改訂方針は、基本的に記号法は変えずに下位項目の展開が中心である。新主題に対しては一見して対応できているように見えるが、単に名辞が追加されたり変更されていたりするからそう思えるに過ぎない (と推測できる)。

そこで今期は、NDC の新訂 9 版 (以下「NDC9」) に BC2 や DDC で有効性を確認した記号法や分析合成の手法を実装する実験を行う。

分類研究分科会は 2 年間で (1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3 つの期間に分けて活動する。

#### 第 1 期

2006 年度は期の始まりであるから第 1 期の活動に重点を置いた。まず概論として以下の文献 (図書) を精読した。

- ・ 主題組織法概論 : 情報社会の分類 / 件名 丸山昭二郎, 岡田靖, 渋谷嘉彦著 紀伊國屋書店, 1986

続いて、夏期研究合宿は第 2 期のテーマである NDC の構造を探る段階に入るが、並行して第 1 期の課題として以下の文献の精読を行った。

- ・ 川村敬一「一般分類法における主類の選定と順序:その哲学的小よび社会歴史的背景の考察」日本図書館情報学会誌 50(1), p.1-25 2004
- ・ 原田勝「ドキュメンテーションの現在」情報の科学と技術 p.280-284 2003
- ・ 北克一「主題情報の検索:総論」情報の科学と技術 54(7), p.334-340 2004
- ・ 大場利康, 川鍋道子「図書における主題検索:NDL-OPAC での検索と国立国会図書館の取組み」情報の科学と技術 54(7), p.341-347 2004

夏期研究合宿後も分析合成型分類法に関する基礎知識を確認することを目的として以下の文献の精読を行った。

- ・ 光富健一「情報の組織化とファセット分類法」情報の科学と技術 32(2), p.109-114 1994
- ・ 眞下勇「『Facet』概念と『主題』概念についてー『現代図書館分類法』を求めてー」TP&D フォーラムシリーズ 2, p.56-59 1994
- ・ 小林康隆「デューイ十進分類法第 20 版 780:音楽ー分析合成型分類法の実務的有効性についてー」TP&D フォーラムシリーズ 2, p.38-55 1994
- ・ 萬谷衣加「BC2 (Bliss Bibliographic Classification 2nd ed.) 分類を付与する試み」TP&D フォーラムシリーズ 12-14, p.95-110 2005
- ・ 光富健一「統制索引言語の必要性」情報の科学と技術 46(11), p.613-618 1996
- ・ 河島正光「多元方式分類」現代の図書館 25(2), p.71-75 1987
- ・ Foskett, D.J. and Foskett, Joy. Bliss Bibliographic Classification 2nd ed. Class J: Education (分類研究分科会 2003 年度訳; BC2 クラス J 教育序文)

## 第 2 期

夏期研究合宿は分科会 OB を交え、「NDC の根幹をとらえる」をテーマに NDC9 の改訂方針およびその批判を中心に NDC9 刊行後のレビューや批評の文献を検討した。

具体的には 1990 年代の前半、日本図書館協会分類委員会が『図書館雑誌』上で提示した改訂試案に対し、日本図書館研究会の整理技術研究グループを中心とした各研究者たちが『図書館界』誌上で批評を行うという動きがあったので、それぞれを対照させつつ検討した。結果として、実際にその批判や指摘された問題点のいくつかは NDC9 の改訂に反映されていることを確認した(しかしなおも問題は残されている)。

NDC の改訂に関して精読した文献は以下の通り。

- ・ 「日本十進分類法第 9 版試案の概要」図書館雑誌 (全 11 回)
- ・ 「NDC9 版を考える」図書館界 (全 6 回)
- ・ 吉田暁史「NDC9 版(案)の検討」図書館界 45(4), p.372-377 1993
- ・ 千賀正之「新訂 9 版(NDC)のあらまし--分類表改訂とその効用」びぶろす 46(9), p.212-215 1995
- ・ 相原信也「日本十進分類法新訂 9 版の刊行までの経緯とその制作過程について」図書館雑誌 p.976-979 1995
- ・ 石山洋「NDC 新訂 9 版の目指したもの--新時代への基盤確立と伝統の継承」図書館雑誌 89(12), p.974-975 1995
- ・ 野口恒雄, 吉田暁史「NDC9 版の批判的検討」図書館界 48(2), p.70-77 1996
- ・ JLA 分類委員会「NDC 新訂 9 版の補訂について」図書館雑誌 90(3), p.180-182 1996

また、今後具体的に NDC の教育分野を研究するにあたり、NDC における複合主題の扱い、ファセット化の先行研究および NDC と DDC の比較を行った文献などを精読した。

- ・ 浅野十糸子「NDC(日本十進分類法)における複合主題の表現について」堺女子短期大学紀要 19, p.23a-13a 1984

- ・ 石塚栄二「NDC の総記共通区分における面の複合」図書館学会年報 22(2), p.49-52 1976
- ・ 平田伸夫「日本十進分類法新訂 9 版の課題」中京大学図書館学紀要 24, p.15-25 2003
- ・ 吉田暁史, 蔭山久子「NDC8 版「教育」の検討--ファシット分析手法を用いて」図書館界 36(3), p.127-133 1984
- ・ 若林元典「比較分類学の試み--NDC の教育と DC の Education」駒沢大学文学部研究紀要 37, p.1-14 1979
- ・ 若林元典「比較分類学の試み-2- NDC の教育と DC の Education」駒沢大学文学部研究紀要 41, p.1-37 1983

さらに 2007 年度の活動の準備として、「出版年鑑」における教育分野の分類別出版点数調査を開始した。2007 年度は引き続き出版点数の調査結果をもとに NDC9 改訂の妥当性を検証する作業に入る予定。

### 3) 刊行物及び事業

#### ア. TP&D フォーラム 2006 (第 16 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループにより始められた TP&D フォーラムは第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2006 年度は文京区本郷にて開催し、分科会現・旧会員から 5 名が実行委員として当日の運営の中核を果たした。

TP&D フォーラム 2007 (第 17 回整理技術・情報管理等研究集会) も東京での開催となる。分科会代表である藤倉が実行委員長として選出され、分科会現・旧会員を中心に実行委員会を組織、現在開催準備中である (8 月 25~26 日、文京区本郷で開催予定)。

#### イ. 日本図書館協会分類委員会への意見提案

夏期研究合宿の検討を通して、NDC9 の改訂後も残る課題がいくつか確認された。これらの諸問題について、10 版改訂作業中である日本図書館協会分類委員会に対し、1 月 20 日付で分科会からの要望という形で提言を行った。

その後、3 月 8 日付で分類委員会より分科会宛回答が寄せられた。今後も日本図書館協会分類委員会との連絡は継続する予定である。

#### ウ. 分科会設立 50 周年記念事業の継続

2004 年 11 月 13 日に開催した分類研究分科会設立 50 周年記念シンポジウムの記録につき 2006 年度中の刊行を目指し記念事業実行委員会で編集作業をしてきたが、記録編集上の諸般の事情により編集作業が遅れている。現在シンポジウム記録の校正作業中であり、近日中の刊行を予定している。

文責：藤倉恵一 (分類研究分科会代表)